

令和２年度第１回米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議 会議録

会 議 名	令和２年度第１回米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議
開 催 日 時	令和２年11月９日（月）10時00分～11時45分
開 催 場 所	オンライン会議
出席者および 欠席者	【出席者】金井座長、萩原副座長、古澤委員、小林委員、田川委員、川瀬委員、高木委員（７名） 【欠席者】村田委員、大澤委員、中村委員、馬淵委員、宮崎委員（５名）
議 題	（１） 令和元年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の取組について （２） 令和元年度地方創生推進交付金活用事業について （３） 令和２年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の主要事業について
結 論	（１） 令和元年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の取組について ・中学生がまちを紹介し、発信するなど、地元に対する愛着や理解を進める取組をカリキュラムとして構築すべき。 ・集落での住宅地について、自治会への住宅地整備の意向調査を実施すべき。 ・若い人の情報発信を評価し、サポートする仕組みや基本となる Wi-Fi などの環境整備が必要 ・事業者が自らウェブサイトやECサイトを構築し、発信支援やIT補助金の活用を促進するサポート体制をつくるべき。 （２） 令和元年度地方創生推進交付金活用事業について ・ビワイチの市としての効果について検証する必要がある。 ・伊吹山登山者をターゲットとして地域が稼ぐしくみを検討されたい。 ・㈱ナンガなど全国・世界的な事業者もあるので連携されたい。 （３） 令和２年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の主要事業について ・今後を見据えて、5Gの先行導入や積極的なEVステーションの設置など、若者を惹きつける先進性を見せる取組を実施されたい。 ・トラクター等の自動運転が進んでおり、GPS 基地局を市が設置するなど後押しをすべき。 ・IoTの実証実験を長期的にどのように進めるか想定すべき。 ・関ヶ原町に古戦場記念館がオープンしたため、連携も検討されたい。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）	１ 開会あいさつ （政策推進部次長） ２ 協議事項 （１） 令和元年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の取組について ・ふるさと教育では、中学生での教育がすごく大切であり、地元に対する愛着や地元への理解を促進するカリキュラムがあるとよい。 ・米原市にどの地域からどの年代がこられているか、調査して対策すべき。

- ・若いうち、小さいうちから米原市の魅力を知り、愛着を持ってもらい、市外へ出て「地元がいい」と、帰ってきてもらうことが必要。他にはない、画期的なものがないと、良くなっていかないのではないかな。
- ・集落に戻りたいが、住宅地がなく、住宅地開発が進む米原地域や近江地域に住む人も多くいる。朝日のように集落の中に住宅地ができると、帰ってくる人たちも増えるのではないかな。集落ごとに要望や希望、意向があるかを聞いてみてはどうか。
- ・米原駅東口ちづくり事業を進めているが、若い人たちが魅力に感じる「にぎやかさ」はどうしても必要だと思う。事業が遅れているということだが、民間が実施されており、今の経済状況では、止まる可能性もあるのかもしれない。市として、積極的にその辺をフォローすることも必要ではないかな。
- ・米原市を知ってもらうことがまず必要。小・中・高生の方々に、米原市を紹介していただくようなカリキュラムや仕組みを作ると面白い。子どもたちの情報発信は、実は大人がやるよりも上手。
- ・地方のユーチューバーが注目を集めている。そういう意味では米原市は自然にも恵まれ、遊び場もあるので、子ども目線、若い人目線で発信する人をサポートしてはどうか。若い人が発信することを評価し、効率を上げる仕組みを作ること、変わってくる。
- ・デジタルトランスフォーメーションをどう加速させるか。この地域が、デジタルとしてどんなことができるのかを示すべき。
- ・Wi-Fi がないと若い人は来てくれない。本当に、デジタル化していないとまちとしてかなり危険。
- ・市内の各生産者さんや地元でビジネスを起こしてる方が、積極的にホームページやECサイトを作る仕組みを作るべき。市としてサポートしてはどうか。
- ・国や県でもIT補助金があるが、補助金申請が煩雑。行政書士と組んで申し込みを簡単にできる仕組みを作るとか、IT補助金の利用を後押しして、米原市がすごいITが進んでるという認識を作れるといい。
- ・米原市の場合、発信力が弱い。民間も活用して発信すべき。

（２） 令和元年度地方創生推進交付金活用事業について

- ・ビワイチで、米原市にどういう効果があったのかっていうのが見えづらい。米原市にどのように、どんな人が来たのか、調べたほうが良い。
- ・スポーツレガシーについては、インバウンド事業なので、今年はなかなか難しいと思う。マイクロツーリズム、GoTo トラベルも含めて、結果・成果が出てるか見ていく必要がある。また、インバウンドに対しての準備も明快に進めていかなければならない。
- ・戦国ロケット流星はほとんどメディアにも取り上げられなかったのもったいない。クラウドファンディングでここまで集まってるのに、もう少し発信すべ

きだった。

- ・伊吹山の登山を取り上げるべき。多くの人に来ていて、頂上付近では、渋滞が起きるほど。それが、市内への経済効果はほとんどない。お客さんが来ているのであれば、お金を落とす仕組みを早めにスタートさせないともったい。例えば駅前でマルシェができるように少し緩和するとか。
- ・山に来る方はシニアも多く、裕福な方、時間がある方も多い。帰りにちょっとしたいい物が買える、行くときに何か山の上で食べたいものを売るような仕掛けをするべき。できるところからスタートされたい。
- ・伊吹山の登山道の安全確保と同時に、米原駅、近江長岡駅にお土産も買えるような場所をつくり、経済効果が出るような方向で進めてほしい。重点的な政策として、取り上げていただくことが必要。
- ・ビワイチは琵琶湖一周で 200 キロ位あって、毎週自転車に乗ってるような人しか 1 日で回れない距離。宿泊需要が生まれるが、出発点でないところに泊まるケースが多い。出発点である米原市にビワイチでお金を落としてもらおうと思うと非常に難しいのではないか。守山市なども非常に力入れておられ、競合も多い。
- ・市内には(株)ナンガがある。商品もアウトドアだけでなく、いろいろなものを結構増やされている。近江長岡駅にお店を出すとか、コラボしてPRできるとよい。
- ・(株)ナンガもそうだが、米原市は、布団産業が盛んだった経過がある。ストーリー性あって、地方の中からナンガみたいなような、全国、世界規模のブランドが出ている。地元企業のルーツを探ることを 1 つのコンテンツにして、小さいころから知っていることは、すごく大切。
- ・近江長岡駅での伊吹山に関する案内が少ない。現在、駅前を整備されているので、丁寧な案内版やインフォメーションが必要。
- ・米原市の観光コンテンツを発信するサイトがないことが一番の問題。スマホでも見れるウェブサイトで、SNS 発信と連動することが必要。

(3) 令和2年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の主要事業について

- ・米原市の交通の利便性や環境を見せる中では、子育て世代に対するアピールが重要になる。今後、教育的なサポートを充実していくべき。
- ・サテライトオフィスを推進するためには、5Gを先行的に入れることも検討されたい。
- ・今後、特に電気自動車が急増する。充電スタンドについて課題となるため、積極的にEVステーションを作ること検討されたい。
- ・少しでも先進性が見えると移住を希望する若い人も増える。
- ・米原駅東口は、ヤンマー中央研究所も鉄道総研もあり、(株)童夢もある。社会実験を実施したいと考えておられるのではないか。

	・ 5 G 補助事業の活用を検討されたい。 ・ 社会実証実験の場として提供することを前提に、民間からの参入を推進されたい。 ・ トラクターやコンバインの自動運転が盛んに開発されているが、GPS のアンテナが高価で導入のネックになっている。北海道では、アンテナを市庁舎などに建てて、農家は無料で使えるようになっているところもある。GPS 基地局を市が設置し、後押しをされたい。 ・ 例えばヤンマーと市役所で、共同して市内で自動運転のトラクターが数多く走っている状況ができれば、外部からの見方も変わってくると思う。 ・ 自動決済の直売所、無人配送やトラクターの自動運行、ハウス栽培の自動制御など IoT の実証実験を長い年月の中でどう実現していくか想定されるといい。 ・ 市でも農業分野、5 G 活用など検討している部分もあると思う。市、東口まちづくり協議会、びわ湖の素DMOなど、連携しながらすすめていく必要がある。 ・ 東京、大阪方面よりも東海地方に向けたPRが必要ではないか。 ・ 関ヶ原に古戦場記念館もでき、メディア露出している。連携してPRできないか。
会議の公開・非公開の別	☒ 公 開 傍聴者： 0人
会議録の開示・非開示の別	☒ 開 示
全部記録の有無	会議の全部記録 ☐ 有 ☒ 無 録音テープ記録 ☒ 有 ☐ 無
担 当 課	政策推進課（内線91-246）